

### ■米国：2016年のGHG排出量は2005年比で11%減少

2018年4月18日の専門誌によると、米国環境保護局（EPA）が公表した2016年の温室効果ガス（GHG）排出量報告書について報じた。同報告書によると、2016年のGHG排出量は2005年比で11%減少した。パリ協定に基づく排出削減目標は2005年比で2025年に26～28%削減することであり、目標達成まで差があるが、電気事業からのCO<sub>2</sub>排出量は2005年比で25%削減しており、再エネ導入や石炭からガスへの転換など近年の発電事業でみられる傾向が反映された結果となった。現トランプ政権は、オバマ政権が提案した既設発電所からのCO<sub>2</sub>排出削減をめざすクリーン・パワー・プラン（CPP）の見直しを実施中で、スコット・プルーイット EPA長官は、CPPなしでもCO<sub>2</sub>排出削減が進むことが確認されたとコメントした。